

## 南海トラフ地震臨時情報に関する学際的プロジェクトの中間報告会を行いました (2020/2/19)

テーマ：南海トラフ巨大地震 臨時情報  
会場：高知県高知市 高知会館

東北大学災害科学国際研究所では専任・兼任教員 13 名が中心となり、2019 年 1 月よりセコム科学技術財団の助成を受け、「南海トラフ地震臨時情報が発表された際、社会が実効的に対応し、災害軽減につなげられるための学際的研究プロジェクト」を進めてきました（タイトル「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」）。2020 年 2 月 19 日（水）午後、同プロジェクトメンバーは高知市においてプロジェクトの中間報告会を開催し、プロジェクトの概要説明、各班の初年度の進捗状況に関する発表を行いました。報告会においては、高知県の臨時情報発表対応についても共有いただき、意見交換も行いました。当日の内容は以下のとおりです。

- プロジェクト概要紹介：福島 洋 准教授（災害理学研究部門）
  - 高知県の臨時情報発表対応の取り組み：高知県
  - 進捗報告
- <現象評価研究班>  
「起こりうる地震発生シナリオと津波リスクの整理」：木戸 元之 教授（災害理学研究部門）
- <対応行動体系化班>  
「企業・組織の推奨対応や選択肢」：丸谷 浩明 教授（人間・社会対応研究部門）
- <社会影響研究班>  
「住民・社会の反応想定必要性」：奥村 誠 教授（人間・社会対応研究部門）  
「想定被災地における住民認識の調査」杉浦 元亮 教授・平野 香南 研究員（同上）  
「非専門家と災害リスクの不確実性—課題と対応方法—」中鉢 奈津子 特任助教（広報室）
- 意見交換
  - まとめと挨拶：今村 文彦 所長・教授（災害リスク研究部門）

報告会へは、上記プロジェクトメンバー発表者および佐藤綾乃・中田晋司研究員（人間・社会対応研究部門）に加え、高知県ご関係者やメディア、防災に関心の深い一般市民の方など計 28 名が参加しました。報告会では、本プロジェクトに関して高知のステークホルダーにフィードバックをいただくことができ、また高知の南海トラフ地震臨時情報への対応状況を共有いただくことができました。



会場の様子

文責：中鉢奈津子（広報室）、写真：平野香南（人間・社会対応研究部門）